



生き生き職場をめざして 「労働法」を学び実践につなげよう

講師/中村専務理事

連合鳥取は、10月6日(土)、中部教育会館(倉吉市)にて、組合役員を対象に「労働法」について知識を深めることを目的とした「労組リーダーセミナー」を開催しました。産別・単組役員を中心に約80人が参加し、18グループに分かれ、労働法や労働運動の歴史についての知識を問う45問のクイズに挑戦し学習しました。

五十嵐会長は主催者を代表し、本日のセミナーの趣旨を述べ、本日学んだ内容を構成組織で実践し活かしていただきたい。」とあいさつしました。

続いて、講師に、(財)富士社会教育センター中村勝雄専務理事を迎え、「すぐに役立つ労働法」について4人一組のグループワーク、クイズ形式で楽しく学習しました。

参加者のみなさんは、受付後入った会場で、事前にグループ分けしていた席次を見て困惑気味でしたが、講義がはじまると、グループのチームワークで和気あいあいとクイズの回答を取りまとめ、グループごとに挙手で回答の正誤を確認しました。

講師から各質問と回答の注意点、法律の内容等について丁寧かつ巧みな話術で説明いただき、3時間の講義があつという間に過ぎた

セミナーでした。

参加者のみなさんからは「参加して良かった。労働法について理解が深められた、分かりやすいセミナーだった。」と感想をいただきました。

「労働法」は、労働者にとっては労働条件です。働き方のルールであり、労働の良否を判断するモノサシとなります。働き方や職場生活、ライフスタイルに直接関わるワークルール、労働時間や有給休暇など基本を

踏まえたうえで、今一度「労働法」を見直してみよう。



最高回答率のグループ

クイズに挑戦!

YES NOでお答えください。

- Q1 団結権、団体交渉権、団体行動権(争議権)の三つの権利は、労働組合法で保障されている。
- Q2 有給休暇の取得は、原則、使用者の許可制であるので、申請をしても認められない場合がある。
- Q3 賃金(給料)は原則定められた日に支払われなくてはならないが、経営状況が厳しい場合は、定められた日から1ヵ月以内に支払えばよい。

回答はこの機関紙のどこかにあります。

11月
は

労使がともに協力し労働時間の短縮を～過重労働、賃金不払残業をなくしましょう～

「労働時間適正化キャンペーン」期間です。

みなおします。

わたしの仕事、わたしの時間。

すべての働く人、働きたいと思っている人たちのために行動し、
政治や社会への発言力を高め、
連合がめざす『働くことを軸とする安心社会』の実現に向け力強く前進しよう

連合鳥取第20回定期大会

連合鳥取は「第20回定期大会」を11月22日(木)10時30分から倉吉未来中心・小ホールで開催します。

2013年度運動方針(案)については、向こう1年間の活動方針として、連合方針を基本に、2012年度運動方針を補強しています。

これまで活動の経過を踏まえ、構成組織の英知を結集して一体感ある活動を展開していきましょう。

2013年度運動方針(案)(要旨)

はじめに

東日本大震災から1年8ヶ月を経過したが、被災地の復興は道半ばである。福島原発事故の早期収束、被災者救済など、生活の安心に繋げていくことが求められている。

野田政権は「日本再生戦略」を策定し、2020年にむけて大震災からの復興と日本の再生、デフレからの脱却、グリーン/ライフ成長戦略、雇用の創出、社会・経済を支える人材育成、などを掲げている。待ったなしの喫緊の課題への取り組みと予算の重点化も含めた大胆な政策実行が求められている。

政治動向は「ねじれ国会」で“決まらない政治”が続いていたが、三党合意により「社会保障と税の一体改革法案」が成立した。子育て支援、非正規労働者保護のための法改正、高齢者の雇用確保措置の充実のための法改正など、政権交代によって実現した政策・制度も数多くあるが、政治の不安定化も進行している。政

権交代から3年余り、本来の役割を発揮できる政治へと向かう努力が求められている。

鳥取県内は経済情勢の影響を受けて、企業の構造改革が実施され、労働者の仲間にも雇用不安が発生している。

連合鳥取は、中小零細企業労働者、非正規労働者などの多くが未組織労働者である実態を踏まえ、すべての働く者を代表するナショナルセンターとして、組織拡大によって運動を強化し、連合の「実行力」「政策力」「社会的影響力」を強めなければならない。より多くの労働者を組織することにより、「労働運動の社会化」につなげていくことが重要である。

また、「地域に根ざした顔の見える運動」をさらに前進させ、構成組織・地協との連携を一層強化するとともに、志を同じくする幅広い人々や組織、団体との連携を強化し、新年度の運動を力強く展開していく。

運動の重点推進事項と特に強化して取り組む事項

- ・「1000万連合」実現に向けた組織強化・拡大、人材育成の強化、連帯活動の推進による社会的影響力ある労働運動の展開
 - 県連合一般会計と地協一般会計の連結決算の導入
 - 連合鳥取組織人員目標32,000人の実現と、連合本部の「1000万連合」実現に向けた、構成組織と連携した取り組みの展開
 - 地協専従役員による労働相談と、地域活動からの情報収集による組織拡大の展開
 - 「地協の果たす12の機能」の中の「政策提言機能・政治活動機能・組織拡大機能・交渉機能・中小労組支援機能」の取り組みによる地域に根ざした顔の見える運動の推進
 - 「働くことを軸とする安心社会」の社会的浸透をめざす「対話集会」の開催
 - 定期大会およびメーデー大会のフォトニュースの発行
 - 直加盟組織の産別への加盟促進
 - 「地域キャリア教育支援協議会」(仮称)への積極的参画による労働教育の推進
 - 平和学習に関する現地学習会の開催
 - 「第84回メーデー大会」の開催 《2013年4月28日(日)》
- ・非正規労働者の仲間づくりと労働条件底上げに向けた社会運動の展開
 - 非正規労働者、未組織労働者等の労働相談対応強化による組織化・問題解決の促進
- ・公正と連帯を基盤とする安心社会の構築に向けた政策・制度の取り組み
- ・労働条件の底上げと社会的横断化の促進とディーセント・ワークの実現
 - 県、市町村での公契約条例制定に向けた首長、各級議会に対する要請行動の実施
 - 改正された「労働者派遣法」「労働契約法」「高齢者雇用安定法」の周知徹底
- ・男女平等社会の実現に向けた平等参画の強化
 - 「連合鳥取第2次男女平等参画推進計画」の見直し
- ・政策実現に向けた政治活動の強化
 - 次期国政選挙(第46回衆議院選挙および第23回参議院選挙)に向けての取り組み
 - ・連合の基本方針と選挙対応方針を基本とした、推薦候補者の必勝に向けた連合鳥取総力を結集しての支援活動の展開
 - ・参議院比例代表選挙での組織内候補者9名の全員当選をめざした取り組み
 - ・比例代表選挙と選挙区選挙の効果的展開
- ・公正なグローバル化を通じた持続可能な社会の実現に向けた国際活動の強化
 - 中国吉林省総工会訪中/中国情勢を慎重に見極めて対応

クイズに挑戦!の答え

A1 No

「労働組合法」ではなく、「日本国憲法」で保障されている。

A2 No

「使用者の許可制」でなく、労働者に「請求権」があるもの。
使用者にある「時季変更権」は、年休取得者が殺到して、代替要員の確保が困難な場合など「事業の正常な運営を妨げる場合」にのみ適用される。

A3 No

労働基準法第24条
賃金は、通貨で、直接労働者に、その全額を支払わなければならない。また、毎月一回以上、一定の期日を定めて支払わなければならない。
賃金支払の5原則(通貨払の原則、直接払の原則、全額払の原則、毎月一回以上払の原則、一定期日払の原則)を規定したもの。

仲間の交流と親睦を！ - 鳥取高退連「第18回グラウンドゴルフ大会」を開催 -

鳥取高退連は10月12日(金)、お台場公園(北栄町)多目的広場において「第18回鳥取高退連グラウンドゴルフ大会」を開催しました。当日は前日からの雨もやみ、心配していたグラウンドの状態も良好で予定通り開催することができました。

今大会には、団体20チーム、個人参加を加えると140人の申し込みがありました。当日は128人の参加となりましたが、倉吉地区の開催のため鳥取地区や米子地区の多くのみなさんにご参加いただくことができ盛大な大会となりました。また、開会式には民主党県連代表の湯原衆議院議員にもごあいさついただきました。

日頃の練習の成果が発揮でき上位入賞された方もありましたが、前日の雨で芝の状態が普段と違い、成果が思うように出せずに苦労されている人も多く見受けられました。大会参加者の最高齢は、郵政退会の稲毛重敏さん(87歳)で打数は45打でした。鳥取高退連の仲間の交流と親睦を深める意義ある楽しい時間を過ごせました。

今後、ますます高齢化が進む社会に向けて、老後を安心して暮らせる福祉の充実した社会をめざしてお互いに頑張ることを誓い、再会を約束し散会しました。



《成績》(敬称略)

団体戦		
優勝	自治労(県中部)	252打
準優勝	情報労連(中部A)	257打 H2
第3位	郵政(西部A)	259打

個人戦

優勝	完井 徹(国公総連)	30打 H2
準優勝	小谷 登(情報労連・中部A)	37打 H1
第3位	森中喜輝(自治労・県本部B)	37打
第4位	池本重喜(情報労連・中部A)	38打 H1
第5位	磯江智昭(私鉄総連A)	38打 H1
同点の時は2打の数の多い方が上位		

今大会には、連合鳥取の五十嵐会長より特別にスポーツリンクの提供と中国労働金庫・鳥取県労福協・全労済よりそれぞれ特別賞の提供をいただきました。お礼と感謝をいたします。
(寄稿 鳥取高退連中部地区協議会事務局長 宮本秀美さん)

働きがいのある人間らしい仕事を求めて - 「ディーセント・ワーク世界行動デー2012」県内3カ所で一斉行動 -

すべての人にディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)が保障される社会基盤整備の必要性を訴える街頭アピール行動を10月17日(水)県内3カ所(各地協)で実施しました。

当日の天候は、風雨によるあいにくの悪天候でしたが、東部以外は風雨もおさまり少し肌寒い夕暮れの中、各地協十数名の役員が街宣行動に集い、地域の仕事帰りのみなさんに対し、ディーセント・ワーク社会実現をめざす街頭アピールとディーセント・ワークを訴えることを記載したチラシやティッシュ配布を行いました。安心と希望につながる社会をつくっていくために、働く仲間との連帯を強化し団結を強めて行動していくことをマイクを通して力強く訴え、世界行動デー2012の取り組み行動を展開しました。



東部



中部



西部

労使一体となって労働災害ゼロをめざそう - 「第8回セーフティネットワーク集会」を開催 -

10月23日(火)、五十嵐会長他執行委員16名が参加し、紙パ連合王子製紙新労働組合ならびに米子王子紙業労働組合と王子製紙(株)米子工場の労働安全衛生の取り組みについて学習を深める「第8回セーフティネットワーク集会」を行いました。

最初のオリエンテーションでは、会社紹介ビデオの視聴と、歴史・生産工程等の説明を受けました。「米子の地に創業開始して60年経過した。今後は“next60”というコンセプトで新たに地域社会に貢献したい。」と話されました。あわせて、王子グループの安全衛生の取り組み方法の説明では、労働災害発生時情報の共有化や、これまでに発生した事故防止対策と事故後の対策についてもお話いただきました。

続いて行った工場見学は、労働組合役員と会社側から安全衛生室長(労組元支部長)をはじめとするみなさんに案内いただき、世界を代表する高級塗工紙を一貫生産するラインを見学しました。

その後、意見交換会に移り、作業環境などに関して、参加者全員からの質問に丁寧な回答をいただき、活発な意見交換の場となりました。

本集会で学んだ事を構成産別・単組に持ち帰り職場の改善に役立てていきたいと思います。



米子工場の説明

當選 石上 良夫 (部落解放同盟) 551票(推薦)



詳しくは各地協事務局、
連合鳥取へお問い合わせせ
ください。

わが国の制度やシステムが大きく変貌する転換期に差しかった▼キーワードは言われて久しい「平和・人権・安全・安心」に凝縮される。高度成長から40年を経た社会インフラへの安全性、社会保障は今を形成して30年足らずで疲弊、そして雇用環境は僅か20年で様変わり、総じて大転換を求められる背景は先進国でも稀であるう。なかでも戦後70年を迎える「平和のあるべき姿」は重要な課題だ▼わが国は講和条約とともに安保条約に調印、60・70年代に「反安保闘争」が展開された。当時、反安保は「米国の核の傘」で再び戦禍へ強制される事態を非難した行動であったが、当時の吉田内閣は安保を堅持、再軍事を否定した（へらしい）▼70年の平和を享受したいま、竹島、尖閣諸島の領土・領海・主権を巡って、安倍・石破ラインの自民党総体に自衛隊派遣と専守防衛論の拡大、9条を含めた改憲議論が進行し、武装強化が正当化される環境が懸念される。皮肉にも反安保の本質は忘却の彼方へ、そして同盟を強化する条約へと刷新さ

れる過程が見え隠れするも、過去の足跡を振り返ることが重要だ。（中）



てんじんじらむ

